

# 小学校の事例 南区 豊滝小学校

## 国蝶オオムラサキを飼育・観察。 生命サイクルや森や自然について考え、発表する。

国蝶オオムラサキを題材に発達段階ごとに視点を変えて学ぶ。  
飼育や観察を通して自然環境を守る心を育て  
自ら発表することで地域発信も実現。



### はじめに 地域とともに長年にわたって続けてきた飼育

本校では、平成13年ごろから「豊かな自然環境や社会環境に触れながら、地域の環境の素晴らしさを知る」「環境を守ろうとする心情や自分にできることを考え、実践しようとする態度を育てる」「学校生活の中で、環境に配慮した生活習慣を育てる」というねらいのもと、3～6年生が「国蝶オオムラサキ」の飼育に取り組んでいる。

飼育方法などは、地域のオオムラサキの保護活動をしているオオムラサキ分科会と連携し、さらに分科会とは別にゲストティーチャーを招いて学習。

分科会の方が造った「こんちゅうびっくりハウス」と呼ばれる学校敷地内にある飼育小屋で、児童が総合的な学習の時間に世話をし、オオムラサキのようすを観察している。



こんちゅうびっくりハウス

### 内容 幼虫からサナギ 羽化 産卵 越冬を観察

オオムラサキの観察は、春、越冬した幼虫を取り出し、枝に登らせるところから始まり、脱皮、サナギ、羽化、産卵、ふ化、越冬までを見守る。

3、4年生は「オオムラサキの観察活動をとおして蝶の一生に関心をもつ」ことをねらいに、総合的な学習の時間約半分の時数を使って飼育・観察している。オオムラサキの秘密を探ろうと、学校周辺の落ち葉拾いや、幼虫の越冬の様子などを調べている。

5、6年生は「オオムラサキや地域の自然について関心を持ち、課題を見つける」ことを目指し、総合的な学習の時間の一部を使い、飼育・保護に関して活動。また、自然の中のオオムラサキのようす、森の仕組みを学ぶことによって、自然環境を守るために自分たちにできることなどを考えている。

学習したことは、子供たちがそれぞれとりまとめ、12月に開かれる「八剣タイム発表会」で発表する。この会には協力いただいたことへの感謝の意味を込めて、分科会の方やゲストティーチャーを招待しており、児童の学習の成果を知ってもらいたい機会となっている。



オオムラサキの一年

### 効果 自然界の食物連鎖を知り 考える機会に

単にオオムラサキについて知るだけでなく、この活動を通し、3～4年生は身の回りの社会や、自然に目を向け、5～6年生は自然環境を守るために、私たちはどのように生活しなくてはいけないかを考える。

学校ではオオムラサキの幼虫を何百と育てているが、ほとんどは害虫やカラスに食べられたりしてしまう。卵の段階でカメムシなどに食べられてしまうことも多くある。

子供たちはこのような出来事とおし、自然や生命についてさまざまなことを考える機会を得ている。



オオムラサキの幼虫

### 注意点 「学校」の希望を明確に伝える

ゲストティーチャーを招くことによって、いつもの授業や教科書からは得られない興味深い話を聞くことができ、また、それにともなって意欲や関心も高まる。さらに児童が投げかけた疑問には、専門的な立場から答えてもらうことができる。

自然を相手にするので、天候によって予定通りに進まないということも多々ある。そうなったときのためにも、普段から分科会やゲストティーチャーと連絡を密に取り合うことが必要だ。



オオムラサキの羽化

広げよう  
つなげよう  
環境学習の輪

実施校から  
メッセージ

この取組は、ゲストティーチャーの方の協力をいただきながら、子供たちの実態に応じて進めてきています。内容をより充実させるため、児童からアイデアが入ればどんどん取り入れ、活用していきたいと考えています。活動をとおして、最終的には、子供たちが、自分たちが住んでいる地域のよさを見つけ、大事にしていくという気持ちを育ててほしいと思っています。